

# ICCAIAモントリオール2018年秋期会議 及びICAO会合参加報告

ICCAIAモントリオール2018年秋期会議が2018年10月9日にモントリオールにて開催されたのでその報告を行う。同時期の10月9日から19日にかけてICAOにおいて来年のICAO総会（9月開催予定）の準備会合となるAir Navigation Conference が開催された。ICCAIAは専門家の立場より5本のレポートを提出するとともに、参加者より提出されたレポートに対しても適宜産業界の立場でコメントを行った。SJACからもICCAIAの一員として担当部長が参加したので併せて報告する。

## 1. ICCAIA会議報告（2018年10月9日）

ICCAIA議長（J. PIE氏／ASD専務理事）の進行のもと前回（本年3月）の議事録の承認、本年度予算の現況についての説明の後、以下の事項に関する報告があり、討議を行った。

なお、ロシア工業会の専務理事が交代となり、今回よりLiudmila B. Rostovtseva 女史が会議に参加した。

### (1) ICAO活動

ICAOでの主要活動への支援としてICCAIA議長のJ.PIE氏が2018年6月のICAO Council（理事会）においてState Of Industryと題して航空機の燃費向上、環境問題への対応、ICAOでの新たな課題になるドローン、サイバーセキュリティ等への基準策定への貢献をプレゼンした。

NGAP（Next Generation Aviation Professionals）活動への貢献としてICCAIAよりICAO内に作られる専門家のタスクフォースへの参加が求められている。この活動は将来に渡り民間航空分野へ有望な人材を確保していくことを目標としており、ICCAIAメンバーからも活動への参加者の候補を2018年10月に募り、対応していく。

CORSIAの検討を行うCAEP委員会の構成メンバーにつきCouncil（委員会）とワーキンググループで先進国中心のオブザーバーの比率が各国の代表から選出されるメンバーよりも高く（多く）なっており、またワーキンググループでは技術データなど知的財産権に関連するものを含めて議論が行われているが、その性格上守秘義務を参加者に課していることもあり、委員会のメンバーより議論の透明性が保たれているのかとの疑問が提示されているとのこと。CORSIAは各国へは排出規制の義務を課すものになるため、このような委員会のメンバーからのコメントは今後の委員会・ワーキンググループでの議論に少なからず影響が出てくるものと推察しており、フォローしていく。

2018年11月に開催されるAir Navigation Conference（AN Conf／13）へ参加し、ICCAIAの技術専門家が纏めた5本のワーキングペーパーを提出するとともに、各国からだされるワーキングペーパーに対し産業界からのコメントを適宜行っていく。

付属議定書関連としてCORSIAに関する初めてのICAO ANNEX（付属議定書）が発行

された。正式名称は以下となる。

Annex 16 Environmental Protection, Volume IV - Carbon Offsetting and Reduction Scheme for International Aviation (CORSA)

## (2) 新規メンバーの募集について

シンガポール、インドへの勧誘は継続しており、彼らからの質問に対応している。メキシコ、韓国にも勧誘していく可能性があるとの報告が事務局よりあった。

## (3) ICCAIAのICAO駐在員

現在いる2名の駐在員の引退等にもない、新たな駐在員の選定（面接等）が行われており、数名の有力候補がいるとのこと。ICAO駐在員に求められる産業界を代表してICAOへ引続き情報発信できることや、人件費予算の効率化のために、カナダ国籍の有無の影響などの論点について話し合った。

## (4) セキュリティー専門委員会

エアバス社のMr. Xavier Depinをリーダーとして活動しているICCAIAセキュリティー委員会の参加者が増強され、ICAOの各種専門委

員会への派遣も行っている。今般のAir Navigation Conferenceでもワーキングペーパーを一つ提出する。

## (5) ハロン使用の代替措置

代替案のついでの開発状況のレポートを産業界として2019年9月の第40回ICAO総会にて行う可能性があるとのこと。

## (6) その他

今回はICAOでのCAEP会合（2月4日から15日）に併せてICCAIAの2019年春期会合を開催することとした。

## 2. 第13回 Air Navigation Conference / AN-CONF / 13th 報告

AN-CONF / 13thが10月9日から19日の間にICAO本部のモントリオールで開催された。112カ国のICAO加盟国、32の国際機関、オブザーバー組織から合計1,000人以上が参加して行われた。来年（2019年）9月24日から開催される第40回ICAO総会に向けて総会で討議されるW/P（Working Paper）につき提案者が概要を説明し、参加各国やICCAIAのようなオ



ICAO本部（入口）とAN-CONF / 13の案内

ブザーバーより意見表明がなされた。

8つの項目（アジェンダ）に分かれて提案されたW/Pの総数は約300件（内100件は情報提供／Information Paper）であった。SJACもICCAIAの一員としてオブザーバー資格でこの会議に参加した。ICCAIAは以下の5つのW/Pを発表するとともに、会議にて発表された幾つかのW/Pに対して産業界として技術的な実現性を考慮するべきとのコメントを行っている。

以下に会議アジェンダ項目及びICCAIA発表のW/Pの概略を紹介する。（なお、すべてのW/Pや議事概要はICAOのHP内の本会議ページに掲載されているので参照されたい。）<https://www.icao.int/Meetings/anconf13/Pages/default.aspx>

(1) アジェンダ・アイテム1～4では航空管制の組織論、世界戦略、法規制、システムの強化、地域対応等の議論がなされた。

総括／合意として、「ASBU（Aviation System Block Upgrade）の検討、推進」、「ICAO事務局より提案されているGANP（Global Air Navigation Plan／DOC9750）の検討、推

進」などが了承された。また、各国・各機関から提出されたW/Pにつき提案者からの概略説明とその質疑が行われた。

(2) アジェンダ・アイテム5「新しく発生する問題」（Emerging Issues）として、5.1「フライトレベル600より上での運航」<sup>(注)</sup>、5.2「1000フィートより下の運航」、5.3「遠隔操縦航空機システム（Remotely Piloted Aircraft System）」、5.4「サイバー・レジリエンス」、5.5「ドローン、超音速、宇宙飛行を含むグローバルな航空ナビゲーションシステムに影響する問題」の5項目について今後の対応方針が議論された。総括すると「急速な技術開発に対応する必要性」、「既存の空域利用者に悪影響を及ぼさないようにすること」、「騒音規制等の現行規制を遵守すること」などの方針が了承された。また、各国・各機関から提出されたW/Pにつき提案者からの概略説明とその質疑が行われた。

(注)フライトレベル600とは高度6万フィートのことで、ここでは6万フィート以上の高高度空域に関する議論となる。



会議場風景（各国の代表及びICCAIAのようなオブザーバーが参加している様子）

(3) アジェンダ・アイテム6~8では航空安全につき戦略、リスク要因、今後の課題等の議論が行われた。

総括／合意として、「ICAO事務局より提案されているGASP（Global Aviation Safety Plan／DOC10004）の検討、推進」、「USOAP（Universal Safety Oversight Audit Program）の検討、推進」などが了承された。また、各国・各機関から提出されたW/Pにつき提案者からの概略説明とその質疑が行われた。

合意された勧告を含め、議論の結果は同カンファレンスのHPに公開されており、細部についてはこのレポートを参照していただきたい。

ICCAIAとして提出した技術レポート（一部は他機関との共同提案）は以下となる。  
#1、#2は管制・運行関連 #3、#4は無人機／ドローン関連、#5はサイバーセキュリティー関連となる。

#1. Aviation System Block Upgrade (ASBU)

implementation (ICCAIA／IATA)

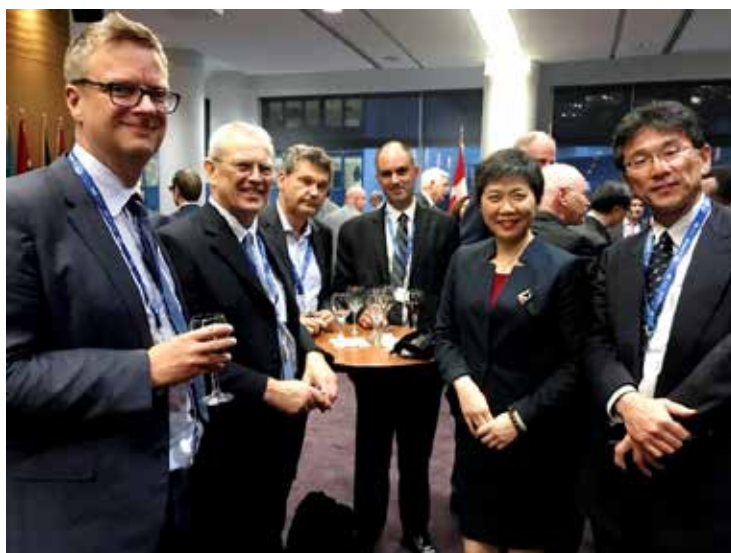
#2. Concerns on mandates for equipage and use of specific Global Navigation Satellite Systems (GNSS) elements (ICCAIA／IATA)

#3. Concepts to enable drone operations to seamlessly integrate with air traffic management (ICCAIA)

#4. Industry views on operations above Flight Level 600 (ICCAIA)

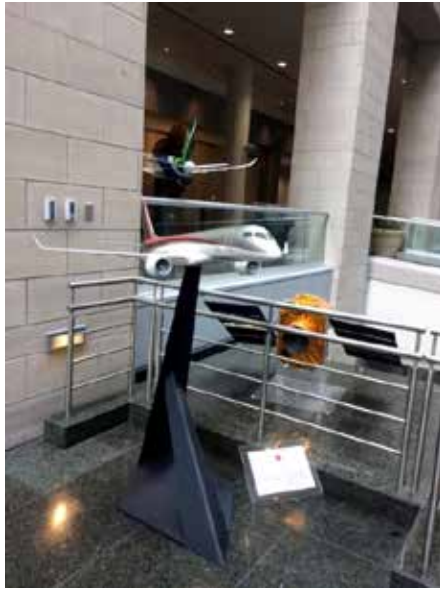
#5. Considerations about cybersecurity in aviation (ICCAIA)

本会議中にICCAIA議長（J.PIE氏）がICAO事務総長（Dr.Fang Liu）と個別のミーティングを持った。全般的な話題に加え、新たな課題であるドローンやサイバーセキュリティー分野への対応においては、新たな団体で活動するのではなく、ICCAIAが産業界として纏めてもらえればとのコメントも出された。添付はICAOレセプションでの事務総長（右から二人目の女性）とICCAIAの会議参加者との写真となる。



ICAO事務総長とICCAIAメンバー





民間航空機の開発国は各々の代表的な航空機模型をICAO内に展示しており、日本のMRJも展示されている。

また、会議開催中にICAO日本政府代表部の松居代表、宇佐美代表代理と情報交換を行った。

CORSIAの内容検討は2019年1月からの推進を目指してICAO内で進められているが、先進国と発展途上国の意見の相違から担当する技術部門となるCAEPの改革・リストラに繋がっていく動きがICAO内であるとのこと。技術的な専門性から先進国出身者が多数を占めるオブザーバーへの不満から、加盟国である発展途上国が地理的なバランスを求めていくとのロジックでCORSIAへの関与を強めていきたいとのこと。

また、来年のICAO総会へ諮られる案件については来年の6月ぐらいにはICAO理事会にて承認され固まってくるのでここ半年ぐらいが実質的な議論の時期とのこと。

CORSIA：Carbon Offsetting and Reduction Scheme International Aviation

CAEP：Committee of Aviation Environmental Protection

### 3. 所感

民間航空の運営にあたり根幹をなす航空管制と航空安全につき、幅広い議論に接することができたことは大変有意義であった。

また、「新しく発生する問題」(Emerging Issues)についても、議論の方向性を知ることができた。

共継続して情報を収集するとともに、今後  
に生かしていきたい。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 技術部部長 細田 慶信、国際部部長 羽中田 実〕